



平成 20 年 11 月 7 日

各 位

会社名 川田工業株式会社  
代表者名 取締役社長 川田 忠裕  
(コード番号 5931 東証・大証第1部)  
問合せ先 執行役員経理部長 高橋秀夫  
(TEL. 03-3915-4325)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 5 月 21 日の決算発表時に公表したの業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績予想数値の修正

(1) 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	54,000	200	△200	△300	△5 23
今回修正予想 (B)	54,817	875	768	203	3 54
増減額 (B-A)	817	675	968	503	
増減率 (%)	1.5	337.5	—	—	
(ご参考) 前年中間期実績 (平成 20 年 3 月中間期)	49,179	△2,425	△2,558	△1,695	△29 55

(2) 21 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	120,000	1,000	0	0	0 00
今回修正予想 (B)	117,000	2,000	1,000	0	0 00
増減額 (B-A)	△3,000	1,000	1,000	0	
増減率 (%)	△2.5	100.0	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	107,122	△3,797	△4,537	△2,997	△52 23

## 2. 個別業績予想数値の修正

(1) 21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	45,000	100	△200	△200	△3 46
今回修正予想(B)	41,271	596	586	14	0 26
増減額(B-A)	△3,729	496	786	214	
増減率(%)	△8.3	496.0	—	—	
(ご参考)前年中間期実績 (平成20年3月中間期)	37,144	△2,040	△2,340	△1,354	△23 44

(2) 21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	93,000	700	0	0	0 00
今回修正予想(B)	90,000	1,300	800	0	0 00
増減額(B-A)	△3,000	600	800	0	
増減率(%)	△3.2	85.7	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	76,841	△3,218	△3,883	△1,958	△33 89

## 3. 修正の理由

### (1) 個別

第2四半期累計期間の売上高は、建築部門においてマンション建築工事を抑制したことにより、前回予想より3,729百万円減少し41,271百万円となります。売上高は前回予想より減少したものの、前期迄に低価格で受注した橋梁部門の工事はすでに工事損失引当金を計上していること、また、採算性を重視した選別受注の効果が現れて、粗利益率は改善され、販管費等の圧縮などと相まって、営業利益は前回予想より496百万円増加し596百万円、経常利益は前回予想より786百万円増加し586百万円となります。しかしながら、海外事業に係る特別損失などを計上したことにより、当期純利益は14百万円(前回予想△200百万円)に止まりました。

通期の売上につきましては、建築部門の事業抑制に伴い売上高は減少するため90,000百万円を見込んでおります。なお、営業利益・経常利益につきましては、前述の要因により、それぞれ1,300百万円、800百万円の利益計上となり前回予想を上回る見込であります。最終損益につきましては、前回予想通りとなります。

## (2)連結

第2四半期累計期間の売上高は、当社における売上高の減少はあるものの各連結子会社の上期の売上高が増加したことにより、前回予想より817百万円増加し54,817百万円となります。営業利益、経常利益につきましては、当社の粗利益率の改善のほか、連結子会社の川田建設(株)においても同様に採算性が順調に回復しておりますことから、前回予想を上回り、営業利益は875百万円、経常利益は768百万円の計上となります。当期純利益につきましては当社の要因による特別損失の計上があるため、203百万円となりました。

通期売上高の減少につきましては、当社の要因によるものが主因であります。営業利益・経常利益につきましては、第2四半期までの状況のまま推移することが見込まれ、最終的には前回予想より増加し、それぞれ2,000百万円、1,000百万円の計上を見込んでおります。また、最終損益につきましては、前回予想の通りであります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報を基に作成しております。

実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

以 上